

放射線は微量でも人体に影響するのですか？

学習内容の定点

- 一. 町の全貌を見渡す俯瞰的視点
- 二. 世界観の醸成
- 三. 国際的視点から偏向報道を批判

- 一. 恐怖・呪縛という心理を分析する
- 二. “空気”と“呪縛”に“水”を差す方法
- 三. “情緒の自由”と“共同体のルール”のバランス。多数決の原理を採用

- 一. “量”は生活に影響を及ぼすので問題にする
- 二. 「日常生活に支障があるか、ないか」を判断基準にする
- 三. PDCAをまわす組織は信頼性が高い

- 一. 誤解の科学的側面を明確にする
- 二. 市民の非科学的振る舞いの例示
- 三. 科学は“判断”に関係なく、常識は“量”を問題にする、という認識

- 目星をつける：**
- 一. 誤解の特徴を明確にする
 - 二. 誤解を科学的、常識的、情緒的側面に分解する

アイデア駅
志の人

情緒駅

[科学+常識+情緒]
の人

常識駅

[科学+常識]の人

科学駅

科学の人

誤解駅

誤解の人

GOKAI NO HITO
1234-56.78
情緒駅-アイデア駅
1234-56.78
発券当日に限り有効 下車前途無効

アイデア的側面

- 俯瞰性(1)：放射線影響を正しく理解すると低線量被曝は生活習慣の影響程度であり、1mSv/y以下といった過剰な対策は情緒がもたらす。
- 俯瞰性(2)：放射線に対する過剰な反応は、別のリスク(関連死、風評被害、将来のエネルギー選択の誤解)をもたらす、社会生活を混乱させます。
- 俯瞰性(3)：メディアは、国民が放射能を正しく理解したら困ります。新聞が売れなくなるから。
- 俯瞰性(4)：「正しく怖がること」こそ、放射能誤解を乗り越える一歩です。

GOKAI NO HITO
1234-56.78
常識駅-情緒駅
1234-56.78
発券当日に限り有効 下車前途無効

常識駅-情緒駅

情緒的側面：

- 情緒(1)：40代の母親の例。福島事故でパニックに陥り、放射能が本当に怖くなった。恐怖をあおる情報に興奮し、正確な情報が受け入れられなくなった。事故から半年後、放射能の恐怖を強調する人たちの説明に疑問を抱き、正しい情報に接するようにして、パニックから脱出できた。
- 情緒(2)：「放射能で汚染されている」と言われ傷ついた福島県在住の方。誤った情報や誤解によって、他人を傷つけてしまう。間違いや過激なデマを流す集会に参加して、不安を増殖させ、家庭崩壊に至った例もある。それを反面教師にしてパニックを克服した人もいます。
- 情緒(3)：周辺からの圧力に屈して誤解に陥る人もいます。和して同ぜず。難しい人間関係。

GOKAI NO HITO
1234-56.78
科学駅-常識駅
1234-56.78
発券当日に限り有効 下車前途無効

科学駅-常識駅

常識的側面：

- 常識(1)：広島・長崎の原子爆弾の被ばく者に対する疫学調査の結果、100mSv/y以下の線量では癌や白血病は増加しなかった。
- 常識(2)：国立がんセンターによれば、100~200mSvでは、癌のリスクは1.08倍になるという。喫煙だと1.6倍、大量の飲酒だと1.6倍、運動不足でも1.15倍以上、野菜不足で1.06倍。低線量放射線の影響は生活習慣に比べて無視できるようです。
- 常識(3)：広島では、原爆投下後2週間ぐらいで多くの市民が市内に戻り、残留放射線を浴びました。しかし、広島市の女性の寿命は90年代に日本一長く、死産率は全国最低になりました。

GOKAI NO HITO
1234-56.78
誤解駅-科学駅
1234-56.78
発券当日に限り有効 下車前途無効

誤解駅-科学駅

科学的側面：

- 知見(1)：放射線が問題なのは遺伝子を傷つけるからです。大きく傷つくと癌になります。
- 知見(2)：低線量被曝だと損傷は回復します。従って被曝した“量”が問題になります。年間100~200ミリシーベルトの線量では健康障害はないといわれています。福島では、1~20mSv/yを問題にしていますが、気持ちはよくないですが、障害は起きません。過剰に恐れを吹聴しているマスコミは罪深いのです。
- 知見(3)：人類は何万年もの間2.2mSv/yの自然放射能を浴びています。ブラジルでは7.8mSv/yの自然放射能を浴びています。1mSv/yを過剰に報道するマスコミは罪深いものがあります。
- 知見(4)：温泉での放射能は健康に良いとされています。マスコミ報道はこれらの事実と矛盾しています。